

# 関東中学生軟式野球クラブリーグ

春季・秋季大会

資料



主 管  
開催地区

2023年2月改定

“礼儀作法マナー・良識ある指導モラルを大切に”  
私たち社会活動が、日本の未来に貢献できることを信じて！

関東中学生軟式野球クラブチームリーグ

## 関東中学生軟式野球クラブチームリーグ大会要綱

- 1、大会名称 関東中学生軟式野球クラブチーム関東大会
  - 2、大会目的 本大会は、関東における中学生軟式野球クラブチームが大会を通して中学生同士の交流・親睦を図り、行儀作法と野球技術の向上に寄与し、中学生軟式野球クラブチームの発展に貢献することを目的とする。
  - 3、主催 関東中学生軟式野球クラブチームリーグ
  - 4、主管 グラウンド提供地区とする。
  - 5、後援 **京急開発株式会社**
  - 6、協賛 ナガセケンコー株式会社
  - 7、会期 **※ 前期(春季大会) 3年生中心のレギュラーチーム。**
    - ①参加チーム全チームによるトーナメント大会とする(1月中に参加チームの抽選会を行う)  
**「1回戦は、3月中」・「2回戦は、4月中」・「3回戦は、5月中」・「4回戦は、6月中」に行う。**  
**準決勝・決勝戦は、7月中に行うこととする。**
      - \* 1回戦は、対戦相手と日程調整を行いグラウンドを確保し進行してください。
      - \* 2回戦以降も同様に勝者同士が連絡を取り合って順次進行してください。
      - \* 勝者チームは、必ず本部へ連絡し問題があれば指示を仰いでください。**※ 後期(秋季大会)2年生以下のチーム**
    - ①予選リーグ [本部にて参加チームを3~4チームのブロックに分けて予選リーグを行う]  
**\* 8月・9月・10月末までに終了のこと。**
      - ◎各ブロックチーム間で球場を確保して試合を行い順位を決める。
    - ②決勝トーナメント大会(球場は各地区と調整して決める)
      - ◎予選リーグの『1位チームにより抽選会』決勝トーナメント大会を行う。  
**\* 11月・12月上旬に行うこととする。**
- 尚、秋季大会に於いて優勝チームは全日本中学生軟式野球クラブチーム選抜大会(滋賀県琵琶湖開催)へ出場できる。  
但し、参加できるチームは、中学校の部活動野球部に**二重登録**されていない選手で構成されているクラブチームとする。  
**上位チームの東京都最大2チーム・神奈川県最大2チームとし、埼玉県チームがベスト4に進出した場合に限り1チームの参加枠を認める(その際、東京・神奈川チームのベスト4進出状況によりどちらかが1チームとなる)。**  
**参加できない場合は、順次つぎのチームに権利を与える。**
- 8、参加資格 関東中学生軟式野球クラブチームリーグ大会目的に賛同したチームとする。(部活動野球部との二重登録は認めない)
- 9、参加費 **予選リーグ¥2,000 ・決勝トーナメント大会¥3,000**  
**《参加チームは、会計が指定する銀行口座に直接振り込むこと》**
  - \* 会議費・球場費・賞品代・その他等(残金は次年度繰越とする)
- 10、チーム構成 代表1名・マネジャー1名・監督1名・コーチ2名・スコアラー1名  
**※ 選手中学生10名以上20名以内とする。(選手登録は行わず試合ごとにメンバー交換にて確認する)**
- 11、競技規則 財)全国軟式野球連盟、公認野球規則及び大会運営規定による。
- 12、審判帯同 各チームは審判員原則2名帯同のこと(準決勝・決勝戦は本部手配とする)
- 13、大会使用球 全軟連使用球ナガセケンコー(軟球M号)
- 14、大会規定 別紙添付

# 大会運営規定

## 競技上及び審判上の注意事項

1. ベンチは組合せ番号の若い方を1塁側とし、先攻・後攻は主審・監督立会の下、主将のジャンケンで決める。
2. 試合は7回戦とし、1時間30分を過ぎて新しいイニングに入らない。(2020年変更)
3. **投球制限、投手の投球回数は1日当たり100球までとし、これを超える場合は投手を交代しなければならない。**  
**但し、100球になった際の打者の打席が終わるまでは投球可能とする。イニングチェックで差異がある場合は少ない方を採用する。**  
**1日当たり100球を越えなければ、1試合の中で再登板は可能とし、また2試合にまたがって投球することを可とする。**  
**特別延長も含めて100球以内とする。**

### 4. 予選リーグ(秋季)

**\* 皆様のご意見によりまた運営上不都合があり引き分け方式を廃止し、下記のとおり変更しました。**

- ①参加チームを3～4チームに、ブロック分けし、期間内に総当たり戦を行い、ブロック内の順位を決める。
- ②7回終了時または制限時間を過ぎて同点の場合は、タイゲームとして正式試合を打ち切り、特別方式を適用し試合を続行する。特別方式は最大2イニングまでとし、勝敗が決しない場合は抽選によって勝敗を決定する。  
《タイブレイク》 特別方式は正式試合打ち切り時から継続打順とし、無死一・二塁の状態にして行う。(2020年変更)  
(前回の最終打者を1塁走者として、2塁の走者は順次前の打者とする。)
- ③1位チームが決勝トーナメントへ進出できる。
  - ③-2.予選リーグにおいてもコールドゲームを適用する。4回終了時10点・5回以降7点とする。(2020年変更)
  - ③-3.予選リーグの順位の決め方
    - ア、勝利数の多いチームを上位とする。
    - イ、勝利数が同じ場合は、敗戦数の少ないチームを上位とする。
    - ウ、敗戦数も同じ場合は、当該チーム同士の勝ったチームを上位とする。
    - エ、-ウでも同じ場合は、総失点の少ないチームを上位とする。(特別延長戦の点数はカウントしない)
    - オ、-エでも同じ場合は、得点数の多いチームを上位とする。(特別延長戦の点数はカウントしない)
    - カ、-オでも同じ場合は、抽選とする。

**【審判】予選リーグは当該チームの出し合いとし、主審は当事者同士の話し合いとする。**

### 5. トーナメント大会

- ①春季は、全チームによるトーナメント大会とする。  
秋季は、予選リーグの1位チームによるトーナメント大会を行う。
  - ②春季・秋季のトーナメント大会の組合わせは抽選によって決める。
  - ③**試合は7回戦とし、1時間30分を過ぎて新しいイニングに入らないこととする。(2020年変更)**  
**ただし、都連方式で勝ち逃げありとする。内野ボール廻しは認める。2018変更**
    - ④トーナメント大会においても得点差によるコールドゲームを適用する。4回終了時10点・5回以降7点とする。(2020年変更)
    - ⑤7回終了時または制限時間を過ぎて同点の場合は、タイゲームとして正式試合を打ち切り、特別方式を適用し試合を続行する。特別方式は最大2イニングまでとし、勝敗が決しない場合は抽選によって勝敗を決定する。  
《タイブレイク》 特別方式は正式試合打ち切り時から継続打順とし、無死一・二塁の状態にして行う。(2020年変更)  
(前回の最終打者を1塁走者として、2塁の走者は順次前の打者とする。)
- 【審判】トーナメント大会は、その試合の前後のチームが当該チーム出し合いとする。準決勝・決勝戦は、本部から派遣する。**
6. 雨天、日没などによる正式試合の成立は、5回完了時とする。(但し後攻のチームが得点が多い場合は5回表までとする)
  7. 監督・コーチ・選手は、必ず背番号を付けること。監督30番・コーチ28・29番・選手の背番号は0～99とする。  
但し、主将は10番とする。試合は選手10名以上・ベンチに入れる選手は20名以内とする。
  8. 監督に限りグラウンド内に入って選手に指示などできる。
  9. 抗議ができるものは、監督と当該選手とする。
  10. 試合では危険防止のため選手の各用具はJSBBの公認のものを着用または使用しなければならない。  
但し、バットはJSBB公認のものを必ず使用すること。キャッチャー用具・ヘルメットは硬式耐用のものでもよい。
  11. 捕手はレガース・プロテクター・ヘルメット・マスク・ファウルカップを必ず着用すること。
  12. 打者・次打者・走者・ランナーコーチは、両側にイヤーフラップの付いたヘルメットを着用すること。
  13. 大会期間中は、各チーム1～2名の帯同審判員を派遣すること。
  14. 大会運営は、各年度全軟連公認野球規則・競技者必携・当リーグ大会運営規定に準じて行う。
  15. 試合中または球場への往復の事故などについては、主催者は一切責任は持ちませんので、ご注意の上参加してください。各チームは必ずスポーツ保険に加入してください。
  16. 各チームは、球場内・外に限らず整理整頓に心掛け清掃し、ゴミなどは必ずお持ち帰りください。